

道徳教育における評価の現状について

「道徳教育」及び「道徳の時間」の評価について①

小学校学習指導要領 道徳（平成20年3月） ※中学校においても同様の規定

児童の道徳性については、常にその実態を把握して指導に生かすよう努める必要がある。ただし、道徳の時間に関して数値などによる評価は行わないものとする。

小学校学習指導要領解説道徳編（平成20年8月） ※中学校においても同様の規定

第2節 道徳性の理解と評価

2 評価の観点と方法

(2) 評価の方法

道徳性を理解し評価するためには、そのための資料を収集する必要がある。（中略）

以下に述べるすべての方法は、児童にとっては自己評価を促すものであり、教師にとっては児童の道徳性の理解を深め、適切に評価し、指導を改善していく手掛かりとなるものである。

これらの方法には一長一短があるので、それぞれの特徴を押さえた上で、その都度適切な方法を生かすように努める必要がある。

ア 観察や会話による方法

イ 作文やノートなどの記述による方法

ウ 質問紙などによる方法

エ 面接による方法

オ その他の方法

3 評価の創意工夫と留意点

児童の道徳性を理解し評価する場合には、以上のことを踏まえて整理するならば、全体として、次のような点に留意する必要がある。

(1) 児童との心の触れ合いを通して得られる共感的理解を基盤として、児童自身のよりよく生きようとする意欲や努力に目を向けて、道徳性に関する自己理解・自己評価をその内面から理解していくように努める。

(2) 児童理解の観点を固定的に考えず、児童のよさや個性を積極的に受け止め、多面的で幅広い視点に立った評価を心掛ける。

(3) 児童一人一人の姿や変化を具体的に記述できるように努力し、個に目を向けた評価となるようにする。

(4) 自分を表現する得意な面が児童によって違うことなどから、多様な方法を生かしながら評価するように努める。また、可能な場合、複数の方の評価資料を得て評価できるようにする。

(5) 児童の一時期の様子だけで即断することなく、継続的に観察するなどして、長期的な視点に立った評価を心掛ける。

(6) 評価の結果を児童の個に応じた指導や学級全体の指導に生かすようにする。

「道徳教育」及び「道徳の時間」の評価について②

- 学習指導要領解説に示す評価は、学校教育全体を通じて行う「道徳教育」と、その要としての「道徳の時間」の評価について、その具体的な在り方を示したものである。
- 「道徳教育」及び「道徳の時間」の評価は、児童生徒の心の動きの変化・変容を把握するとともに、教師が指導計画、指導方法を振り返り、その効果を確認し、次の指導へ生かすためのものである。
- 学校の教員は、学習指導要領解説に例示する、「観察や会話」、「作文やノートなどの記述」、「質問紙」、「面接」などの方法を用い、資料を収集し、道徳性を理解し評価を行う。
- 「道徳教育」の評価は、指導要録における「行動の記録」の評価（十分満足できる状況にあると判断される場合に、「○」印を記入する絶対評価）の基礎となっている。

「道徳教育」及び「道徳の時間」の評価について③

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について
(通知) (平成22年5月11日)

II 指導に関する記録

6 行動の記録

小学校及び特別支援学校(視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱)小学部における**行動の記録**については、**各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる児童の行動について、設置者は、小学校学習指導要領等の総則及び道徳の目標や内容、内容の取扱いで重点化を図ることとしている事項等を踏まえて示している別紙5を参考にして、項目を適切に設定する。**また、各学校において、自らの教育目標に沿って項目を追加できるようにする。

各学校における評価に当たっては、各項目の趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合に、○印を記入する。 ※中学校においても同様の記述あり。

【指導要録参考様式(小学校)】

項目		行 動						項目		記 録					
		学 年	1	2	3	4	5			6	学 年	1	2	3	4
基本的な生活習慣								思いやり・協力							
健康・体力の向上								生命尊重・自然愛護							
自主・自律								勤労・奉仕							
責任感								公正・公平							
創意工夫								公共心・公德心							

【指導要録参考様式(中学校)】

項目		行 動			項目		記 録		
		学 年	1	2			3	学 年	1
基本的な生活習慣					思いやり・協力				
健康・体力の向上					生命尊重・自然愛護				
自主・自律					勤労・奉仕				
責任感					公正・公平				
創意工夫					公共心・公德心				

